

青少年教育指導者等の養成・研修事業

「自然体験活動指導者養成研修 試行事業」

| | | |
|---------|--|---|
| [主 催] | 独立行政法人国立青少年教育振興機構 | 国立阿蘇青少年交流の家 |
| [共 催] | 独立行政法人国立青少年教育振興機構 | 機構本部 |
| [後 援] | 九州各県・政令指定都市教育委員会 | |
| [期 間] | 平成25年10月12日(土)～10月14日(月) | 2泊3日 |
| [実施場所] | 国立阿蘇青少年交流の家 | 外 |
| [参 加 者] | 大学生1名 民間社会教育施設職員14名 公立社会教育施設職員11名 国立社会教育施設職員7名 | 合計33名 |
| [講 師] | 明治大学 國學院大學 びわこ成蹊スポーツ大学 文教大学 東京学芸大学 岐阜女子大学 筑波大学 公益財団法人 キープ協会 阿蘇広域行政事務組合消防本部 阿蘇広域行政事務組合消防本部 一般財団法人 自然公園財団 国立阿蘇青少年交流の家 | 教授 星野 敏男 氏 教授 宮川 八岐 氏 教授 中野 友博 氏 専任講師 青山 鉄兵 氏 教授 杉森 伸吉 氏 教授 井上 透 氏 教授 坂本 昭裕 氏 事業部長 増田 直広 氏 薄井 良文 氏 田尻 浩昭 氏 木部 直美 氏 所長 久保田康雄 氏 (主任講師) |

1 趣 旨

参加者に自然体験活動指導者（リーダー）としての資質を身につけてもらう。さらに、この指導者養成研修がナショナルスタンダードで継続的なものになるよう、来年度からの本格実施に備え、資料（運営マニュアル・カリキュラム・ハンドブック・テキスト等）を作成するための試行事業として実施する。



2 目 標



中野先生によるまきわりの指導

- (1) 自然体験活動指導者（リーダー）としての資質を身につける。【参加者】
- (2) 試行事業を実施し、その成果や課題を集約する。
それを受け、運営マニュアル等を整理する。【運営】

3 事業展開

(1) 研修プログラム

| | 午 前 | 午 後 | 夜 |
|-----|--|---|------------------------|
| 1日目 | ○開講式 ○講義 「自然体験活動の特質Ⅰ」 | ○講義 「学校教育における体験活動」 ○講義・実技 「自然体験活動の安全管理Ⅰ」 | ○講義・実技 「自然体験活動の特質Ⅱ」 |
| 2日目 | ○講義・実技 「自然体験活動の特質Ⅱ」 | ○講義・実技 「自然体験活動の指導」 ○講義・実技 「自然体験活動の技術」 | ○講義 「自然体験活動の企画・運営」 |
| 3日目 | ○講義 「青少年教育における体験活動」 ○講義・実技 「自然体験活動の安全管理Ⅱ」 | ○講義・実技 「参加者理解」 ○認定試験 ○閉講式 | |

(2) 目標達成のための工夫

① カリキュラムに即した講師の招聘

自然体験活動指導者（リーダー）養成カリキュラムに即して講師を依頼した。各講師には、自然体験活動指導者（リーダー）ハンドブックを基に、講義や実技を実施していただいた。

「自然体験活動の特質Ⅰ・Ⅱ」「自然体験活動の安全管理Ⅰ・Ⅱ」「自然体験活動の指導・技術」「自然体験活動の企画・運営」「参加者理解」「学校教育・青少年教育における体験活動」など、それぞれの講義・実技において、その分野の専門の講師から体験活動の必要性や実践的な知識や技能を学ぶことができるようにした。



井上先生の講義



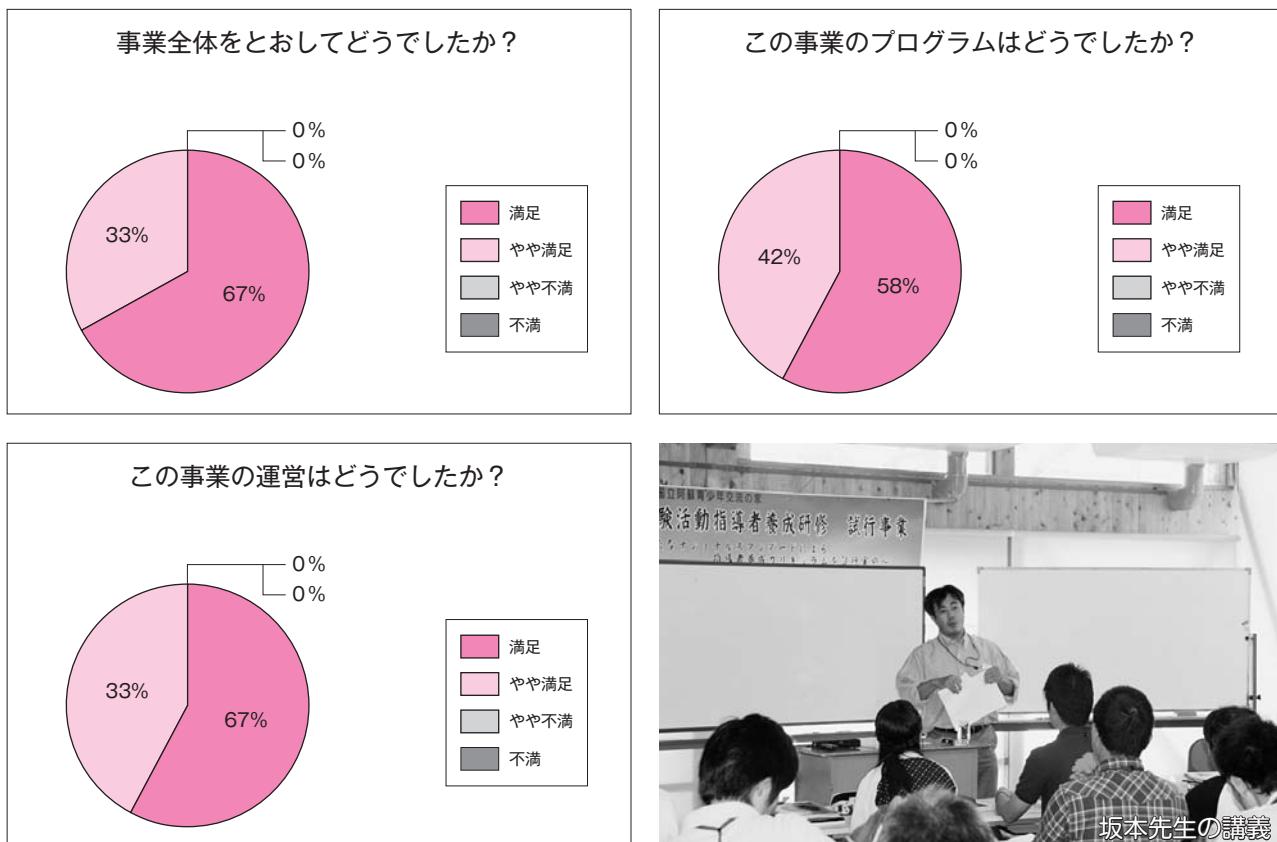
② 研修プログラムの充実

ワークショップやフィールドワークを取り入れたプログラムづくりを行った。参加者が意欲的に取り組み、本研修会終了後、いろいろな場所で学んだことを実践できるよう、具体的で実践的な内容を提供した。また、いろいろな立場での情報交換、意見交流ができるように民間施設職員、公立施設職員、国立施設職員など様々な職種でのグループ編成を行った。

4 結 果

アンケート調査の結果は次のとおりである。

(1) 事業に関するアンケート調査結果



(2) 事業に関する評価・意見書より（参加者記述）

- ・自然体験が子どもに与える影響やそのために求められる指導者としてのあり方など、とてもわかりやすく解説していただいた。
- ・お話に説得力があり、あっという間の80分でした。事例紹介がとても参考になりました。
- ・内容もわかりやすく覚えることも必要最低限に精選してもらっていたように感じる。今回得た知識を利用者の安全管理に努めていきたい。
- ・環境教育と自然体験活動のつながりがはっきりとした。KP法も新鮮だった。
- ・フィールドに出て阿蘇の自然を体験することで、阿蘇の恵まれた自然を理解できた。そこから、参加者それぞれのフィールドのよさも再認識できた。
- ・オリエンテーリングとイニシアティブゲームのプログラムが楽しく、所に持ち帰って実践したいと思いました。
- ・班で一つの物を作り上げることはツールとしてとても重要だと思った。ただの野外調理でなく、「何を作るか？」から始まったのがとてもおもしろかった。
- ・リーダー養成にはぴったりな内容で分かりやすかった。講師の魅力も十分で惹かれる話術があって表情も豊かでした。
- ・データや理論など視覚的に分かりやすい講義であった。昨日までに学んだことを更に深めができる内容でタイムリーだった。
- ・安全管理の視点から運営者側に必要な対応や準備について学ぶことができた。
- ・参加者を画一的ではなく多様的に見る。一人ひとりにより支援をしていくことが大切だと気づかされました。

【参加者の声】(アンケートより)

- 多くの先生から多彩な内容を学ぶことができ、有意義でした。
- 他の施設の方との交流を持てたことがよかったです。
- このような学びの場を準備・計画・運営してくださり大変感謝です。
- あらためてリーダーについて考えさせられたよい活動でした。
- プログラムの構成もしっかりしていてとても分かりやすかったです。
- 1日の学習時間が長すぎる。
- プログラムの順番を入れ替えた方が効果的なところもあった。
- もう少しゆとりのあるプログラムでもよかったです。

5 成果と課題

(1) 成 果

- ① 2泊3日とても内容が盛りだくさんだったが、参加者からは「内容が深かった」「各講師から多彩な事柄を学べた」などの感想があり、事業の満足度も高かったです。
- ② 専門の先生方からの講義や実習により、幅広い知識を得ることができた。また、体験をおして実践的に学ぶことができた。特に、阿蘇の講師（木部氏、薄井氏、田尻氏）により、阿蘇の特色を生かしたプログラムのよさをアピールすることができた。



(2) 課 題 (来年度に向けて)

- ① 機構本部にて、試行事業を実施した3施設（妙高、阿蘇、赤城）の成果や課題を集約する。それを受け、「運営マニュアル」などを整理し、来年度からの本格実施に備える。
- ② 募集枠に上限はあるが、各県教育委員会と連携し、教職員や行政（社会教育）関係者の参加を増やす。



企画指導専門職 井ノ上 正和